



マズローの欲求5段階説の3つめは？



A. 「社会的欲求」と呼ばれるものだよ。

さて、食べ物の確保ができた、安心して眠れる場所も見つけた。
でも一人ぼっちのまま過ごしている。
そこで、次には何を欲しいと思うだろうか？

「[安全の欲求](#)」が満たされると、次に出てくるとされるのが「社会的欲求」と言われているよ。
「愛と所属の欲求」とも呼ばれていて「集団や家族、友達に受け入れられたい」という欲求を指すんだ。
「帰属の欲求」とも呼ばれることがあって、何かしらの社会集団に帰属して安心感を得たい、という欲求なんだ。

マズローによると、人は社会的な集団の中で、所属しているという気持ちや受容してもらっているという気持ちを求める欲求がある、としているよ。
集団の規模の大きさは、ここでは問われないんだ。
規模の大きさや所属している数の多さを問うんじゃなくて、集団のメンバーだ、と感じられることが重要で、本人の感じ方に重きを置くものなんだ。

「[生理的欲求](#)」や「安全の欲求」が満たされていても、話す相手も聞いてもらう相手もない、自分を受け入れてくれる人は誰もいない、では孤独な生活と言えるよね。
たぶんとても寂しいはずで、人によってはさまざまな心の病気や身体の不調(二次障がい)として現れることもあるんだ。
「自分の居場所が無い」「一人ぼっちだ」という寂しさこそ、この「社会的欲求」が満たされていない状態に当たるんだね。

具体的なところでいうと

- ・地域社会
- ・企業や会社組織
- ・宗教団体
- ・スポーツなどのサークル
- ・インターネット・コミュニティ
- ・SNS
- ・家族や友だち関係

これらの関係や集団、組織に所属したり貢献したりすることで「社会的欲求」が充足されると言われているよ。

「社会的欲求」は、集団の一員でありたい、そこで必要とされる人でありたい、という欲求なんだね。

人はグループを作ったり、SNSで繋がりがかったり、宗教に救いを求めたかったり、自分たちだけの群れを作って他者を排除しがちだ。

それは、このような「帰属意識」を求めるからだ、と考えられているんだよ。

子どもたちの「生理的欲求」や「安全の欲求」といった基本的なことが満たされたとする。

そうすれば、次のニーズが必要になってくるよ。

子どもたちは「その地域や場所の一員でありたい」や「なにか自分にできることで貢献してみたい」「自分を必要とされたい」という気持ちを持つだろうね。

子どもは「[地域](#)」という、大きな緩い括りの中で毎日を生きているよ。

その場所で、友だちや地域の人とかかわりを持って受け入れられ、自分ができていることで貢献していることを認められると「地域」への帰属意識が高まっていく。

子どもひとり一人が「地域」というチームの一員で「自分は尊重されているんだ」と感じることの大切さを、大人はいつも考えていなくちゃいけないんだよ。

でも、そう思って、スッと実行できる子どもばかりじゃない。

その場所や集団にうまくなじめなかったり、他者と関わる方法が解らなかったりすると、入っていくことができなくなるよね。

そういうときに[放課後等デイサービス](#)や[児童発達支援](#)が必要になってくるんだ。

「どうしたら関わりやすいの?」「距離感というのは?」「人の気持ちってというのは?」

子どもにとって、この世界は広すぎて意味不明なことばかりだったりする。

事業所の中という小さな空間で問題が無いからいい、とするのではなく「子どもの生きていく未来」という大きな世界を見ながら関わっていく必要があるんだ。

「その場所で果たせる役目がある」という充足感や「集団や社会に受け入れられている」という気持ちが満たされる必要があるんだね。

“ひとりでも私は生きられるけど でも誰かとならば人生ははるかに違う” って始まる歌があるよ。

健やかに毎日を生きていくためには、物質的な満足だけではダメで、自分を受け入れてくれる親密な他者の存在が必ず必要なんだ、ということだよ。

[《MENU》](#)

[《マズローの欲求5段階説の2つめは?》](#)

[マズローの欲求5段階説の4つめは?》](#)